

令和３年度 学校教育目標・重点取り組み

《学校教育目標》

一人残らず、すべての児童に“質の高い”学びを保障する

■めざす学校像

- ・安心して学ぶことのできる学校
- ・児童も教師も お互いに学び合う学校
- ・児童と児童 児童と教職員 教職員と教職員が信頼で結ばれている学校

■めざす子ども像

- ・目と心で聴く
- ・わからなかったら人に訊く
- ・人とつながる

□中学校区のめざす子ども像

自ら学び、行動できる心豊かな子ども
～主体的・対話的で深い学びの実現をめざして～

学校教育目標に向けた重点取り組みについて

1. 確かな学力の育成

「学び合い」の授業づくりの研究・実践を推進し、児童の自己実現につながる学力（主体的・対話的で深い学び、基礎基本の学力）の向上を図る。

●学びあいの授業づくりの研究・実践の推進

- *ペア・グループ学習（「教えて」と訊くことができる〔依存から自立へ〕）
- *聴きあう関係の構築（教師の仕事は「聴く」「つなぐ」「戻す」）
- *高いレベル（ジャンプ）の課題に挑戦する
- *無駄をなくす 暇にさせない

●家庭学習と授業のリンク

●図書館活用教育の推進

- *探求的な宿題や図書館での調べ学習とリンク
- *図書委員会からの提案活動（読書推進、掲示物、ニュースなど）

●授業研究の推進

- *教師どうしが学び合い高め合う。（同僚性の構築）すべての教員が年に最低一度は全体や学年団で授業の公開をめざす。

＊研究授業の柱

- ① 児童がどこで学んで、どこで学ばなくなったかを観察する。
- ② なぜ、学んで、学ばなくなったかを考える。
- ③ この授業で自分が何を学んだかを考える。

＊学年自主ビデオ研や教職員間の授業観察を積極的に行う。

＊来校者には基本的に「いつでも、どこでも、だれでも」公開する。
(開かれた学校)

●ICTを活用した授業の推進

＊GIGA スクール構想で配備された一人一台の児童のPCを有効な情報ツール、教育ツールとして活用し授業の質を高める。

2. 豊かな人間性の育成

他者と信頼で結ばれ、人とつながり、より良く生きようとする力をはぐくむ。

●学びでつながる集団づくり

- ＊学校生活の中でもっとも長い時間取り組むのは授業であり、授業の中で児童どうしがケアしケアされる関係や互いを認め合える関係づくりを行う。
- ＊授業における聴きあう関係の構築から、自分の居場所はどこであるという安心感や自己肯定観を高める。

●多様な人との出会いや道徳・人権学習を通して感性や価値観を磨く

- ＊道徳・人権学習・総合的な学習などの学習場面で人との出会いや体験的に学ぶ機会を設定し、多様な学びを深める。
- ＊道徳・人権学習を推進し、人権感覚やより良く生きる価値観を磨く。
- ＊「ともに学び、ともに育つ」観点での学習や集団づくりに取り組む。
- ＊講師を招いた校内研修により教職員の感性や価値観を磨く。

●不登校をなくす取り組みの充実

- ＊連絡がある欠席や不登校傾向とまでは言い難い段階の欠席であっても不登校かどうかを気にかけて対応し、生徒指導担当に「気になる」と報告する。
(早期対応・対処)
- ＊不登校傾向を把握した際は、迅速な報告・連絡・相談を行い、ケース会議を開催するなど組織的に対応する。
- ＊課題解決のための方策は、短期的展望と長期的展望をもって取り組む。

●問題行動の早期対応・対処

- *生徒指導対応においても、「気になる」ケースの事前把握に努め事案発生時には迅速な報告・連絡・相談と、組織的に対応する。
- *いごこちアンケート等の実施を通して児童の様子を多面的に把握する。

3. すこやかな心身の育成

健康や安全に気を配り、心身ともにすこやかに育つ児童の育成をめざす

●学び合いや ICT を生かした体育の授業の充実

●健康な生活のベースとなる保健・食育の推進

- *保健や家庭科の学習を通して健康な生活を送るために必要な知識（生活環境の保全・感染予防の方法等）の習得を図る。
- *家庭科や給食指導を通して、食育の推進を図る。

●安全教育の推進

- *教職員研修や避難訓練等を通して、児童の安全を守る安全教育・安全管理の更なる充実を図る。

4. 学校力の向上

●校内研修を基盤とした学校づくり

- *教職員が学び合い高め合うことで学校の総合力を高める。

●校区・地域との連携

- *「お話会」（週 1 回、水曜日）、「栽培活動」（5 年稲作）など、地域人材のご支援による教育活動の充実。
- *セーフティボランティアのみなさんのご協力、PTA 地区委員会活動による登下校の安全確保。
- *如是中校区連携、地域教育協議会の推進
- *地域諸団体との連携・協働